

2年生・夏休み前後

オープンキャンパス指導ツール

自校の指導ツールを他校の教師と共に検討し、各校の生徒特性に合った形へ改善を図る本コーナー。今回は、志望を掘り下げたり、進路意識を広げたりするための「オープンキャンパス指導ツール」について検討する。

検討会メンバー



群馬県立
太田高校
新井高広
あらい・たかひろ

教職歴24年。同校に赴任して7年目。3学年担任。進路指導部。数学科。「正しい道を選ぶのではなく、選んだ道を正しいものに出る生徒を育てたい」



愛知県立
東海商業高校
新美廣勝
にいみ・ひろかつ

教職歴23年。同校に赴任して1年目。3学年担任。生徒会部。商業科。「自分の自信と、母校への誇りを持った、社会に愛される生徒を育てたい」



大分県立
中津南高校
遠藤源治
えんどう・げんじ

教職歴14年。同校に赴任して3年目。2学年担任。進路指導部。理科。「為せば成る」の信条の下、夢に向かって挑戦し続けるタフな生徒を育てたい」

群馬県立太田高校・新井高広先生
オープンキャンパス前後に記入する・2年生「大学見学実施計画書・報告書」

ビフォー

実施計画書では、見学先までのアクセス、見学先として選んだ理由、見どころや確認したいところを書かせる。担任は、それぞれの生徒がどこの大学に見学に行く予定かをチェックする。

大学見学実施計画書
2年 組 番 氏名

①志望大学

第1	大学	学部	学科
第2	大学	学部	学科
第3	大学	学部	学科

②見学先

大学	学部	学科
所在地		
実施日	年 月 日 曜日	
経路(鉄道路線など)		
行程		
自宅発	大学着	自宅着
同行者	無	有
保護者・友人(下に氏名と学籍番号を書く)		
氏名	()	氏名 ()
氏名	()	氏名 ()

③ 目的(選んだ理由や見どころ、確かめどころなど明記)

大学見学報告書
2年 組 番 氏名

① 見学先

大学	学部	学科
----	----	----

② 大学の印象(見たり聞いたりしたことから感じたこと)

③ 大学の特徴(訪問してわかったり、あとから調べて得た知識)

④ 大学見学の反省・感想・大学受験への決意など

報告書では、実際に行って感じた大学の印象、分かったこと、大学見学の反省と受験に向けた決意を書かせる。報告書は文理別に冊子化し、2年生が自由に閲覧できるようにしている。印象的な生徒のコメントを抜粋し、プリントにまとめ、次年度の2年生向けの資料としている。

狙いと機能

志望を深め、進路を語り合う
雰囲気クラスに醸成したい

群馬県立太田高校では、2年生に対して進路意識を高めることを目的に、オープンキャンパスへの「最低でも1校の参加」を促している。その前後で「大学見学実施計画書・報告書」(上図参照)の作成を生徒に課している。実施

計画書は各自記入して、7月中旬までに担任に提出する。報告書はLHRの時間に、志望大や志望学部の異なる生徒でグループを作り報告し合うことで、大学への視野が広がるよう活用している。

ビフォー アフター

検討

「ここにしかないもの」を見つけるには
比較させることが欠かせない

新井 生徒には複数の大学に見学に行くよう
に指導してはいますが、

宿題のような感覚で臨み、本来の志望とは異なるにもかかわらず、**気楽に行ける地元大のオープンキャンパス（以下、OC）で済ませてしまいう生徒もいます。**部活動との兼ね合いで志望大のOCに、どうしても参加できないケースもありますが、「**大学はどこも同じだから、志望大までわざわざ足を運ぶまでもない**」「**インターネットで調べれば分かる**」と誤解している生徒もいるようです。



遠藤 本校もOC参加前後で生徒に指導してはありますが、事前指導して

は学部・学科調べに力を入れていきます。**研究内容や取得可能な資格、卒業後の進路などを調べ、「実際に自分の目で確認しよう」と大学見学の目的を明確にすることが狙い**です。ただ、研究内容については、大学のホームページだけでは十分に理解できない



い生徒もいるので、改善の余地はありそうです。また、事後には、学年全体で報告書の発表会を行います。

新美 大学のホームページは、研究内容を

知る1つの情報源ですが、高校2年生にとっては難解な場合もあります。本校では、短大や専門学校のOCに参加する生徒も多い

のですが、事前学習では、大学のホームページの中でも、**学生によるゼミ紹介など、大学生の声を読んでおくように指導**しています。

遠藤 3年生の担任を経験して分

かったのは、**OCがきっかけで志望大を決める生徒が多く、OCが生徒にとつては非常に重要な機会**であるということ。半面、難関大に合格できる潜在能力を持った生徒が、他大のOCへ行ったことで、**比較することなく狭い視野で志望大を決めてしまうケース**もあります。受験までまだ時間のある2年生の夏というタイミングだからこそ、**興味・関心**

と学力に合った大学のOCに参加させたいです。

新美 自分の志望を見極めるには、**複数の進路を比較**することが欠かせません。本学では、必ず3校は見学するように指導し、見学先でもらったパンフレットを学校に持ってこさせます。進学にしろ、就職にしろ、生徒には強い志望理由が必要です。そのためには、**複数の進路を比較し、「ここにしかないもの」を見つけさせたい**ところです。

新井 事前学習で、大学はどこも同じではないことを実感させ、大学見学の狙いを明確に伝えたいですね。そのためには、**複数の進路を比較**することを前提に指導することが重要だと改めて実感しました。

課題と解決策

- 1 「大学はどこも同じ」というわけではないことを実感できる事前学習を実施する
- 2 複数の進路を比較することが出来るOCの事前・事後学習とする
- 3 OCで志望大を固める生徒が多いことを念頭に置き、生徒の興味・関心と学力に合った大学を見学するように勧める

学校プロフィール

群馬県立太田高校

◎ 全日制 / 普通科 / 男子校 / 1学年約280人

◎ 2015年度入試合格実績（現浪計）／国公立大は、東京大、東北大、群馬大などに166人が合格。私立大は、慶應義塾大、東京理科大、早稲田大などに延べ669人が合格。

愛知県立東海商業高校

◎ 全日制 / 総合ビジネス科・情報科（1年次は両科共通のカリキュラム。2年次より分かれる）／共学 / 1学年約320人

◎ 2014年度進路実績（現役のみ）／4年制大進学30人、短大進学11人、専門学校進学65人、就職169人。

大分県立中津南高校

◎ 全日制 / 普通科 / 共学 / 1学年約200人

◎ 2015年度入試合格実績（現浪計）／国公立大は、大阪大、九州大、大分大などに138人が合格。私立大は、慶應義塾大、早稲田大、同志社大などに延べ249人が合格。

検討会で明らかになった課題を踏まえ
2年生「大学見学実施計画書・報告書」を改良！
次ページで紹介します。

アフター

大学別報告書 2年 組 番 氏名 _____

大学・学部・学科名 _____

テーマ	大学案内やホームページを調べて、魅力に感じるところ	教授や大学生に聞いてみたいこと	オープンキャンパスで実際に確認できたこと	テーマで更に知りたいことや、分からなくて困っていること
アドミッションポリシーや教育方針、育てたい人材像				
研究内容、学べること				
取得できる資格				
大学卒業後の進路				

OCの前に記入 OCの後に記入

オープンキャンパスで「驚いた!」「楽しかった!」シーン

オープンキャンパスで「予想と違った」「もっとこんな準備をしておけばよかった」などの反省

大学別報告書 まとめシート

2年 組 番 氏名 _____

●大学別報告書を作成した大学

OC実施日	大学・学部・学科名	志望順位
月 日	大学 学部 学科	位
月 日	大学 学部 学科	位
月 日	大学 学部 学科	位

※第1志望大の報告書を作成できなかった場合は、下に第1志望大を記入すること
[第1志望]

オープンキャンパスや事前・事後の大学調べを通して分かったこと、気付いたこと

研究内容や学べる内容で、一番重視したいこと、こだわり	今回見学したり調べたりした大学で、物足りなさや不足を感じていること
アドミッションポリシーや教育方針、育てたい人材像の中で、一番重視したいこと、こだわり	今回見学したり調べたりした大学で、物足りなさや不足を感じていること
学部卒業後の進路、取得できる資格、一番重視したいこと、こだわり	今回見学したり調べたりした大学で、物足りなさや不足を感じていること

オープンキャンパス参加による第1志望大への変化 <あった・なかった> ←当てはまる方に○をその理由

第1志望大合格に向けて、高2後半から何をどのように頑張るか

複数の大学・学部・学科を調べた上で、OCに参加して気付いたことや不足に感じたことをまとめるシート。大学についての理解を深め、自分の進路観にどんな変化が生じたかを内省させる。

事前に見学先の大学で学べることを調べ、OCで確認し、報告書として完成させる。今回の検討会で先生方から出た「大学生や教授に質問させる」「アドミッションポリシーを意識した大学見学に」「予想と違ったことも書かせたい」といったアイデアも盛り込んだ。

改訂後の狙いと機能

異なる大学・学部を理解する機能と、進路観を内省する機能とに分ける

大学見学実施計画書と報告書の2種類に分けるスタイルから、「大学別報告書」と「まとめシート」から成るスタイルに変更した。大学別報告書は、従来の実施計画書と、事後に書く報告書の要素を受け継いでおり、1枚の用紙でOC参加前と後での自分の志望の変化を整理、比較することが出来る。複数のOCに参加した場合、その数だけ大学別報告書を作成し、1大学しかOCに参加できない場合

は、同じ大学の異なる学部・学科で報告書を作成し、それぞれの進路を比較する。大学別報告書は、生徒自身がOCの成果と今後の進路学習の課題を振り返るものであり、クラス全体で共有することも可能だ。

まとめシートには、複数の進路を比較して分かった自分の進路へのこだわりや今の時点での不安などを記入させ、担任との個人面談の材料とする。担任は、まとめシートの内容を参考に面談の順番や時間配分を決めることができ、更にまとめシートからクラス共通の課題が見つけられれば、LHRなどにおける進路指導の強化ポイントを把握することが出来る。

ビフォー アフター

活用

異なる進路を多角的に比較させ、
十分な内省を経て面談へとつなげる



新井 志望大選択では学べる内容を十分検討するよう、**1つの大学**

の異なる学部・学科でも構わないので、複数の進路の研究内容を「大別報告書」で比較させたいです。大学の研究内容は高校生にとっては難解な場合もありますが、難関大学の理系学部から大学院進学を志望する生徒も多い本校では、「よく分からないけれど、面白そう」という**知的好奇心をくすぐられる感覚を大切にした**いです。分からないことは教授や大学生に聞いてくれるとう気持ちで臨んでほしいですね。



遠藤 部活動などの事情で1大学しか見学に行けない生徒にも、「**同じ大学内で、複数の学部・学科を比較してみれば、第1志望の学部・学科の魅力がはつきりする**」とアドバ

イスできますね。また、事前に教授や大学生への質問項目を考えさせることで、単なる見学で満足す

るのではなく、「疑問点を確認しに行く」「OC参加前後で、大学への印象の変化を内省する」というスタンスが大切なのだと生徒に周知していきけると思います。



新美 OCでの体験が**印象的であればあるほど、生徒に冷静な振り返りを促す事後面談は重要**です。本

校には、早々に志望先を固めてしまいう生徒もいれば、「自分の学力では大学の講義に付いていけないのではないか」と不安を抱く生徒もいます。**OCで得た気付きや不安を「まとめシート」に書かせ、それを基に担任が面談を行い、生徒の思考を整理**することが必要です。「君の興味に合った研究は、この大学で



も出来るから、調べてみてはどうか」と面談で生徒の視野を更に広げ、悩ませたいですね。

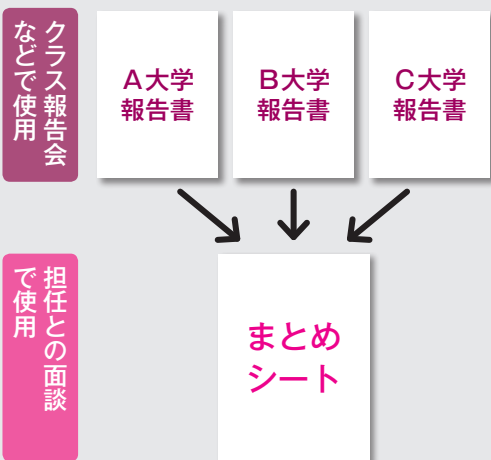
新井 「大別報告書」は調べ学習の成果として、クラス内で閲覧できるようにし、「まとめシート」は担任との面談資料に使うという位置付けが良さそうですね。

遠藤 新井先生の学校では、既に昨年度からOCに参加した生徒のコメントを抜粋したプリントを、次の2年生に配布しているとのことですが、先輩の体験談からOCの大切さが理解でき、事前学習のモチベーションも高められる良い

アイデアだと思いました。

新美 遠藤先生の学校ではOC参加報告書の発表会は、2学年全体の行事だそうですが、そこに1年生も参加させれば、2年生からの大学研究への期待を高められるのではないのでしょうか。先輩から直にOCでの気付きやハプニングを聞けば、「しっかり準備して見学に行こう」という気になるはずですよ。**新井** OCでの体験を語り合う場を設けることで、大学のことを気軽に話せる雰囲気を校内に醸成したいですね。今日の検討結果を、進路指導部で共有したいです。

活用の流れ



OC前に研究内容を中心に見どころや質問事項を書き、OC後に分かったことを書くことで大学別の報告書を完成させる。OCを経て自分の志望に生じた変化や迷っていることなどは、「まとめシート」に記入し、担任との面談に臨む。